

地材地消推進活動の取組による波及効果

空知総合振興局 森林室 普及課 外岡 雄一
伊藤 裕子

取組の背景・目的

- ◆ 一般民有林のカラマツ人工林は、Ⅷ齢級以上が82%を占め資源が成熟化
- ◆ 管内のカラマツ生産量は約46,000m³だが消費量は約3,000m³で、管内でほとんど利用されていない
- ◆ 平成20年より芦別市をモデル地区とし、地材地消推進に向けた普及指導活動を実施

目的

地材地消の波及・意識の定着

取組の内容

夕張市の老朽化した市営住宅建て替えに際し「カラマツによる建築を！」と働きかけ、地材地消を推進

■ 夕張市に向けた取組



調査風景

立木販売で間伐を実施していた夕張市に対して、造林補助事業を活用した間伐への支援

- ・ 現地調査
- ・ 設計積算方法
- ・ 補助事業の活用方法

■ 工務店等に向けた取組



現地視察

夕張市内の建設業者はカラマツを扱ったことがなかったことから、カラマツ材使用に向けた研修指導

- ・ 先進地芦別市へ現地視察
- ・ カラマツ使用の研修指導

■ 一般住民に向けた取組



地材地消体験バスツアー

地材地消の普及PR活動

- ・ 地材地消体験バスツアー（夕張市・芦別市）
- ・ 林産セミナー 等

取組の成果

- ・ H23, H24で8棟40戸の市営住宅を建設
- 木材使用量 H23：素材ベースでは436m³、製材ベースでは192m³
H24：素材ベースでは591m³、製材ベースでは257m³
- ・ 造林補助事業を活用した間伐による森林整備の実施
- ・ 流通・加工システムの確立
- ・ カラマツの建築用材としての認知度UP
- ・ 近隣市町に地材地消の取組が波及



完成したカラマツ市営住宅(夕張市)

今後の展開

- 課題
- ・ 製品のコスト高
 - ・ 素材の安定供給
 - ・ 地域間での認知度の格差

展開

地材地消による資源の循環利用の促進

- ・ 多くのカラマツ住宅が建築されるよう地域材の情報の共有や流通システムの構築など、地材地消活動の継続及び更なる推進
- ・ 近隣市町へ活動範囲を拡げたPR活動